
同窓会だより

1. 同窓会における慶事

副会長 野内 昭 宏

同窓会では慶事があった場合の内規を決めており、それに基づいて表彰等を行っております。今年

度は以下の4名の同窓生が教授に就任されました。それぞれ同窓会より祝意を申し上げます。
遠藤豊 先生（歯学科13期）国際医療福祉大学
配島弘之 先生（歯学科19期）松本歯科大学
入江太郎 先生（歯学科22期）岩手医科大学
照光真 先生（歯学科31期）北海道医療大学



入江太郎 先生（歯学科22期）岩手医科大学



照光真 先生（歯学科31期）北海道医療大学

2. 支部長会議

およそ2,500人いる同窓会員は、約1/3が新潟県内で、約1/3が東京を中心とする上越新幹線沿線沿いで、残り1/3が全国各地で活躍しています。特に新潟から離れている方にとっては、各支部との結びつきが強いかと思います。

同窓会では、各支部間や本部との情報交換や連携の強化を目的として、原則3年ごとに支部長会議を開催しています。本年度は開催の巡りに当たりましたので、お盆明け直後の8月20日に東京で開催しました。

本部の事業執行状況や各支部の現状等の報告、それを基にした討論が活発に行われました。各支部とも独自の事業を行い、その地区毎の情報網を持っています。ある支部では、別の支部と連携して事業を行っていることが、又ある支部では、他大学歯学部同窓会の支部と連携して事業を行っていることが、報告されました。

また同様に、口腔生命福祉学科卒業生や、最近卒業したばかりの若い方々を如何にして支部活動に参加してもらうかなどの意見交換も行われました。

会議終了後は、場所を移動して懇親会を開催し、更なる情報交換をしました。



3. 平成29年度 新潟大学歯学部 同窓会学術セミナーII

歯学科26期生 碓井由紀子

歯の移植を成功に導くために―適応症から予後予測まで―を拝聴して

2017年10月1日、新潟大学歯学部同窓会主催のセミナーに参加しました。講師は長年新潟大学口腔再建外科（旧第一口腔外科）で臨床・研究・教育に携わってこられ、2016年4月より松本歯科大学歯学部口腔顎顔面外科学講座の教授に就任された芳澤亨子先生で、内容は歯の移植に関するものでした。

歴史好きな先生ですので、歯の移植の歴史からお話しがはじまりました。古代エジプトでは他家移植が行われており、時代を経て自家移植へと変遷し、日本においては1980年代より根完成歯移植の報告がなされてきたそうです。

新潟大学歯学部附属病院では2000年に歯の移植外来が開設されました。歯の移植治療を受けた患者さんのデータを集め、成人の歯根完成歯移植についてその成否を決める要因を前向き研究なさいました。歯の移植外来開設以前の症例については

後ろ向き研究を行いその成否に関わる因子も調べられました。

また、移植歯の成否に関わる因子の解明だけでなく、移植後に歯根吸収を生じた経過不良例について予後を左右する因子の解明もなされ、歯根完成歯移植後の経過不良例の原因・予防策・対応策について詳細に教えていただきました。

歯の移植治療を受けた患者さんの全身状態、移植歯の状態、受容部の状態を歯列模型やX線写真も合わせて術前・術中・術後とデータを取り、その膨大なデータをまとめるという地道で根気のいる作業をしつこく、もとい、丹念に続けてこられたのは、偏に患者さんの移植歯をできるだけ長期に機能させたい、という強い思いからなのだなあと感銘を受けました。移植歯が脱落してもそれは仕方ないのではないかと、という私の考えを見直させられる良い機会になりました。

今後は歯の移植の適応であるかどうかを簡便に調べられるようなスマートフォンのアプリを開発してみたい、とおっしゃられ、患者さん第一に研究結果を還元したいという姿勢が窺われました。芳澤先生の益々のご発展をお祈りいたします。

最後に、貴重なご講演をいただきました芳澤先生、企画・運営にご尽力された同窓会の先生方に感謝申し上げます、ご報告とさせていただきます。



4. はぴすまカフェ

歯学科42期 松田由実

今回で講演された根本康子先生とは、昨年度まで本学医歯学総合研究科大学院、歯周診断再建学分野の同期という関係でした。社会人大学院生として、ご自身のクリニックでの診療の合間を縫って研究をされる様子を間近で拝見し、そのバイタリティ溢れる姿にいつも感銘を受けていました。今回、そんな根本先生の「歯科医師人生を変えたターニングポイント」をお聴きできるということで、初めてはぴすまカフェ講演会に参加させていただきました。

講演では、いくつかのターニングポイントにおいて、根本先生が何を考え、どのような選択をして今に至るのか、当時の時代背景や同じ状況にある女性歯科医師に対するアンケート調査なども交えてお話しいただきました。なかでも、迷った時は「ヤバい方、ロックな方」を選んできたというお話が印象的で、同じ女性としてかっこいいと感じました。アンケート結果からは、仕事と家庭の両立や仕事復帰のタイミングなどの女性特有の悩みがある一方で、女性であることの強みや社会的なニーズを多くの先生方が実感していることを知り、今後の歯科医師人生に希望を持つことができました。講演会の最後には根本先生がクリニック

で行った症例を見せていただきました。普段の医局での症例報告では見ることができない内容が新鮮で、とても勉強になりました。

最後になりましたが、このような貴重なお話を聴く機会を作ってくくださった関係者の皆様に感謝申し上げます。


